

一生、
詠み
つづ
けます



深雪みお歌集

水曜日かな目出でも伝説を
作りし呪いと幸運のダイス

推し食みし餡の餅菓子おもはくば
我一生のお伊勢を参る

過ぎし日にずんだ餅食みし君青く
今此の推しは苦味走るなり

A T M ごとしにまみゆる北の顔
埼玉になし北洋銀行

上司曰く

「デアゴステイーニの広告を
見るたび汝をば思ひ準ふ」と

カブという小さきこぐま
元気よく
北極星へ具して行かむと

星のぼり我は今宵も北仰ぐ
よに迷はすものなしと言ひたし

『ちよつとだけエスパ』
いまいま待つ日々や
北のスターが与ふる僥倖

牛乳を吐きて給へる君ゆかし
デイスクセツトす白き聖夜ぞ

製鉄の街に生まれし熱のやう
君の瞳に焦がるる季冬

星
仰ぐ天文台へと行く夜と
か
で
る
2・7
で
推し
仰ぐ
昼

輝ける五稜の星に愛されし
北の大地よ天の加護あれ

月光も私には少し眩しいの
あなたに似せたサングラスかけ

穂別に君がカメラをめぐらさば
スピルバークも光なくみゆ

もし我が身
雪となりせば御作から溢れし熱に
かたち崩るる

学び舎をさしたることはわびしくも
推しも同じくは随喜に転ず

一生をひと日にすれば夕ぐれか
されども君は明くる日になる

ときめかす影絵の巨匠追うやふに
我が推しもまた寿ぎあらむ

天の海

君が北辰の帝とせば

我は尾長きこぐまとならむ

君おはす北の大地の安寧を
我が歌もて言祝ぎ継がむ

深雪みお

北海道余市町生まれ。埼玉県在住。

小説・詩・短歌を中心に制作活動を行う。

2020年、note「#読書の秋2020」にてポプラ社こどもの本編集部より受賞。

2023年、note「#創作大賞2023」ミステリー部門中間選考通過。

2025年、「釧路町平和川柳コンテスト」町長特別賞受賞。

北海道の風土と記憶、人の心の奥行きをテーマに言葉を紡ぐ。



北極星

見上げて涙こぼすほど
あなたのことを
推しと呼びたい